

【基山町立小中学校】

校務DX計画

「G I G Aスクール構想の下での校務のD X化チェックリスト」3 4項目において、本町の主な課題として、クラウドサービスの活用、F A X・押印の廃止、ペーパーレス化の推進等の課題を解決するために、佐賀県が示す教育D Xグランドデザインを踏まえ、以下の解決策に取り組む。

【今後の取組方針】

（１）クラウドサービスの活用

現在、校務ネットワークについては、オンプレミス（町役場に備え付けのサーバー）で運用しており、校務支援システムについては、佐賀県が提供しているシステムにより教務・学籍・成績管理などの校務事務を行っている。今後は、クラウド型統合型校務支援システムを導入し、学籍管理、出席管理、成績管理、通知表の作成、指導要録の作成といった一連の作業がしっかり紐づくようにし、必要最低限の情報の付加で各種書類を作成できるように進める。また、教職員一人一人の事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方を可能とするため、ゼロトラストの考え方に基づくアクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じた上で、学校・町情報管理担当・関係業者と連携を図りながら、ロケーションフリーで校務系・学習系ネットワークへ接続可能な環境の整備を行う。

（２）F A X・押印の廃止

「G I G Aスクール構想の下での校務のD X化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、F A Xを使用している学校は100%であり、「押印・署名が必要な書類はありますか」の問いに対しても100%の学校が「ある」と回答している。災害や教育ネットワークの不具合時などF A Xの方が電子メール等より効率的な場合を除き、F A X・押印の原則廃止に向けて、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対して、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う。また、押印・署名については、証明等絶対に必要なものと、削減を図られるものを区別し、過度な押印署名主義をなくしていく努力を行う。

（３）ペーパーレスの推進

これまで、基山町では、校内の職員会議等において、校務内部サーバー等に保存した電子データを閲覧したり、校務支援システムのグループウェア機能でマニュアル等を学校間で共有したりしてきた。今後は、職員会議での資料等はクラウド間での共有を行うことを推奨し、保護者への連絡についてもクラウドサービスやアプリを活用したデータでの提供をベースとする。それにより会議資料や保護者連絡用紙等のペーパーレス化を強力に推進していく。